

災害に強い県土と防災機能の強化

震災復興
ふるさと宮城
将来像を語る

村井知事と紙上一トーク

5

仙台市の東北・川崎ホール



村井知事からのメッセージ

本県に未曾有の被害をもたらした東日本大震災。被災者の方々の生活の再建が喫緊の課題です。今年度は5、6月と2回の掲載で、次回のテーマは「教育」を予定しています。1回ごとにテーマを変えて河北新報朝刊に掲載します。企画は河北新報社事業部、協力は宮城県震災復興・企画部。

未来に続く安全安心な社会 3・11の惨事 繰り返さない

本県に未曾有の被害をもたらした東日本大震災。被災者の方々の生活の再建が喫緊の課題です。今年度は5、6月と2回の掲載で、次回のテーマは「教育」を予定しています。1回ごとにテーマを変えて河北新報朝刊に掲載します。企画は河北新報社事業部、協力は宮城県震災復興・企画部。

大きな被害をもたらした東日本大震災から間もなく1年になる。シリーズ「ふるさと宮城・将来像を探る」の5回目のテーマは「災害に強い県土・国土構造」。巨大津波で想定を超える深手を負った沿岸部を中心に、宮城県は多重防御のインフラ整備で津波に負けない県土を構築しようとしている。30、40代の県民3人に登場してもらい、その提言や問い掛けに村井嘉浩宮城県知事がメッセージを発する紙上一トークの形で、復興に向けた課題や展望を探る。

津波で被災した沿岸部の住民を高く、内陸部に転移してもいい。居住区域を多重防御で守るという構想は、基本的には正しいと思います。防潮堤に加え、道路や鉄道でも波を食い止めるれば、被災はつなぎ止めます。ただ、海そばで暮らさないで任じにならないという人がいます。その人々の命を守るため、避難施設を補強しなければなりません。高さがあって、がっちとした構造の建物が必要で、場所の選定には住居の意向を聞いていくべきです。若手は住民の意識で建設された避難施設が津波から大勢の子供の命を救った例があります。地元住民の知恵を生かすのです。被災地では津波を感じました。建設業者も県民からバスのチャーターで設備を整えて、食料や生活物資を届けてくれた。ほかにも千葉、静岡、徳島など地方の青年部が炊き出しなどいっしょに手を伸べてくれた。

足りない高規格道路の整備早く

ふなやま・かつや 1965年宮城県丸森町出身。東北工業大学。仙台市の総合建設会社、大手ゼネコン東北支店などに勤め、95年阿部和工務店入社。2000年同社代表取締役。10年宮城県建設業、11年東北建設業の青年会会長就任。

道路も、トランクによる利用を考慮してほしい。今回震災で分かったように、道路が足りていない。断たれてしまったら死んでしまいます。道路網について考え、避難ルートや緊急輸送道路を高規格に作り直さなければなりません。東北は広いので、産業に道路が必要で、農産物や地方産品を運ぶために、高規格道路は足りない。災害時に備える観点からも必要で、高規格道路を早期に整備してほしいと思います。

山元町の津波被害は、とても大きかったです。防災を重視した新たなまちづくりでは、多重防御の視点を取り入れ、堤防の防潮堤、防潮林に代えてかさ上げ道路があれば安心です。JRの駅と道路は高さを確保して、避難可能な場所として整備してほしい。日中の山元町は高齢者が多いのが特徴です。高齢者が多いときは避難が難しくても、短時間避難できるような施設や経路を整備すべきだと思います。津波からの避難場所を明確にして、手荷物非常食などを準備してほしい。

津波が車で逃げたとしても、渋滞になっただけで、逃げられなくなりました。海側と内陸部を結ぶ東西の道路が防災道路として役割を果たすことが大切ですが、道路を確保しただけでは、災害時は東電の予備電源や照明も充実してほしい。

JRの駅と道路は高さを確保して、避難可能な場所として整備してほしい。日中の山元町は高齢者が多いのが特徴です。高齢者が多いときは避難が難しくても、短時間避難できるような施設や経路を整備すべきだと思います。津波からの避難場所を明確にして、手荷物非常食などを準備してほしい。

山元町災害臨時FM「ラジオ」職員 宮城県山元町 伊藤 夕夏さん (32)

活動拠点のラジオ局で仕事をなさる伊藤さん
2月15日、宮城県山元町で撮影

山元町の津波被害は、とても大きかったです。防災を重視した新たなまちづくりでは、多重防御の視点を取り入れ、堤防の防潮堤、防潮林に代えてかさ上げ道路があれば安心です。JRの駅と道路は高さを確保して、避難可能な場所として整備してほしい。日中の山元町は高齢者が多いのが特徴です。高齢者が多いときは避難が難しくても、短時間避難できるような施設や経路を整備すべきだと思います。津波からの避難場所を明確にして、手荷物非常食などを準備してほしい。

学校と地域の安全を融合させる

山元町は、津波に遭った時代から、避難場所や避難経路を確保してきた。避難場所や避難経路を確保してきた。避難場所や避難経路を確保してきた。避難場所や避難経路を確保してきた。

山元町の津波被害は、とても大きかったです。防災を重視した新たなまちづくりでは、多重防御の視点を取り入れ、堤防の防潮堤、防潮林に代えてかさ上げ道路があれば安心です。JRの駅と道路は高さを確保して、避難可能な場所として整備してほしい。日中の山元町は高齢者が多いのが特徴です。高齢者が多いときは避難が難しくても、短時間避難できるような施設や経路を整備すべきだと思います。津波からの避難場所を明確にして、手荷物非常食などを準備してほしい。

宮城県建設業青年会会長
仙台市
船山 克也さん (46)



青年の建設業青年会と絆を感じたという船山さん
1月13日、仙台市青葉区上杉
船山 克也さん

山元町の津波被害は、とても大きかったです。防災を重視した新たなまちづくりでは、多重防御の視点を取り入れ、堤防の防潮堤、防潮林に代えてかさ上げ道路があれば安心です。JRの駅と道路は高さを確保して、避難可能な場所として整備してほしい。日中の山元町は高齢者が多いのが特徴です。高齢者が多いときは避難が難しくても、短時間避難できるような施設や経路を整備すべきだと思います。津波からの避難場所を明確にして、手荷物非常食などを準備してほしい。

東北大災害制御研究センター准教授
仙台市
佐藤 健さん (47)



学校の安全、危機管理などの研究を進める佐藤さん
1月21日、仙台市青葉区常盤
佐藤 健さん

山元町の津波被害は、とても大きかったです。防災を重視した新たなまちづくりでは、多重防御の視点を取り入れ、堤防の防潮堤、防潮林に代えてかさ上げ道路があれば安心です。JRの駅と道路は高さを確保して、避難可能な場所として整備してほしい。日中の山元町は高齢者が多いのが特徴です。高齢者が多いときは避難が難しくても、短時間避難できるような施設や経路を整備すべきだと思います。津波からの避難場所を明確にして、手荷物非常食などを準備してほしい。

シリーズ「震災復興 ふるさと宮城・将来像を語る」は、本年度内に5回掲載しました。新年度は5、6月と2回の掲載で、次回のテーマは「教育」を予定しています。1回ごとにテーマを変えて河北新報朝刊に掲載します。企画は河北新報社事業部、協力は宮城県震災復興・企画部。